

歌壇

大下一真選

特選

浴場の駿河の海は穏かで白砂青松松ぼっくり見ゆ

小石川 荻原 和夫

印刷の工場多き路地裏に迷い込んだら昭和のにおい

水道 菅井 茂子

幼な子の発する声が騒音となりしはいつの頃からなりや

向丘 高野 伸子

入選

そのむかし「てぶくろのかたっぽ」の文字ありき父の書棚の謎めくことば

千石 菊地 正矩

沈丁花ほのかに匂う窓の辺にあす着る着物の小物揃える

千駄木 石井 禮子

薄紅の柔き紙にて雛包む「来年も亦逢いませうね」と

千駄木 上杉 紀世子

おろし立ての白衣を着たる医学生青葉の木陰に教授を囲む

大塚 加藤 喜雄

詐欺よけと息子の決めし合言葉「愛しているよ」は軽やかすぎて

白山 唐木 よし子

公園の小径通れば花吹雪さびしき吾れを抱くがに降る

千石 小出 風沙子

過ぎし日に友と花見し播磨坂桜を賞でつつ春の陽背中に

西片 松林 利枝

俳壇

松澤 雅世 選

特選

花吹雪天地どんでん返しかな

小日向 林 たかし

待つことの桜と会えば忘れたり

千駄木 山田 鈴女

しばらくは鳶の輪の中こいのぼり

向 丘 丸岡 正児

入選

春昼の猫の欠伸をもらひけり

音 羽 森田 幸子

沈丁花いろはにほへど憚からず

千 石 片山 幸則

耳鳴りに紛れて馴染む春の雨

千 石 菊地 正矩

折り返す一両電車春の海

小石川 中野 千鶴子

大木の落花一面闇白し

湯 島 山添 昭子

花びらの冷たさを知る七十年

小石川 井上 静雄

鄙にてぞ本物に遇ふ鯉幟

小日向 内野 仙也